

第4回「実際に体験することは記憶に残りやすい」

巢鴨庚申塚まちづくりを考える会副代表 藤井和義さん

鴨台盆踊りを盛り上げていくヒントを聞いてみました！

大正大学と大正大学の学生が、地域の方と連携して活動をするために必要なことは何かを探る連載「**おうだい3meets**」。第4回は、巢鴨庚申塚まちづくりを考える会副代表の藤井和義さんに、大正大生が地域の方々とどのように関わっていけば良いか聞いてみました。

お話しいただいた人

藤井和義さん



巢鴨庚申塚まちづくりを考える会の副代表・企画幹事。

趣味は仕事と街を見ることで、東日本大震災後は2週間に1回のペースで宮城県を訪れていた。

インタビュアー

相良隼斗



人間学部人間環境学科3年。サービスラーニングの履修は今年で2回目。

趣味は高校野球観戦。

竹ノ谷広輝



人間学部教育人間学科4年。大正大学軽音楽サークルに所属。

趣味はギターを弾くこと。

1. 大正大学の地域交流



本日インタビュアーを務めさせていただく相良と申します。はじめに、大正大学の宮崎牧子先生(社会福祉学科教授)や塩入法道先生(仏教学科教授)と関わった経緯を教えてください。



はい。平成15年にまちづくりの会というものを作りました。そこに宮崎先生も参加してくれたのがきっかけです。



宮崎先生は具体的にどのような形で関わっていたのですか？



中山道と千川上水公園歴史フェアというのをやり始めたのですが、実行委員に大正大学が入っていました。

そのため、実行委員の一員として参加してくれました。



結構本格的に関わっているんですね！



今はどこの大学も積極的に地域と連携しようとしている印象があります。コミュニティ関係の学部も増えていて、まちづくりが盛んになっていますね。大正大学も地域創生学部があったりして、交流が盛んですよね！



中山道と千川上水公園歴史フェアには大正大生は参加していたのですか？



はい。千川上水公園歴史フェアの中でイベントをやっているのですが、そのイベントを支えてくれているのは大正大学の学生なんですよ。今は名前が変わって花と歴史フェアという形でやっています。



なるほど！

千川上水公園はどこにあるんですか？



大正大学のすぐ横の！掘割のバス停の前にある公園ですよ！
あれは豊島区最古の公園なんです。



あ————！



江戸時代に徳川将軍の命によって玉川上水から、水が供給されていたのですが、その水のため池の跡地が千川上水公園なんですよ。



私も行ったことあるのですが、そんなに歴史のある公園とは知りませんでした、、、。



地蔵通りをって六義園方面や、浅草方面にも水を供給していたんですよ。



結構広がっていたんですね。



はい。千川上水公園にはこのような歴史があるんです。

その他にもさくらそうフェアというものをやっているのですが、そこには宮崎先生のゼミ生も参加してくれていますよ。

それから、大正大学の美術部の方と連携しながら、コロナ禍でもできる作業としてアートボードを作ろうかと思っています。



コロナ禍でいろいろなことが制限されていて、企画というものも変化してきましたよね。



そうですね。工夫していかなければ、何もやる事が無くなってしまふ。ステイホームしているだけではだめなんだよね。



コロナ禍だからといって企画を止めてはいけないんだなと思いました。



豊島区最古の公園 千川上水公園

2. 実際にやってみることは大切！



毎年大正大学で開催されている、鴨台盆踊りの印象について聞かせていただけますか？



地蔵通りの盆踊りが中止になっている中で、大正大学の盆踊りは非常に注目されていると思います。

今年で何回目でしたっけ？



今年で11回目になります。

そうですか。



大正大学の盆踊りは、踊りだけでなく、鼓友さんなどほかの団体と連携して地域を盛り上げようとしているのが素晴らしいですね。

実際に、そのような活動に参加するのって記憶に残ると思います。



そうですね！



私もそうだし、**学生さんもそうだと思うのですが、文字から学ぶというのは記憶に残らないと思います。実際にやってみるというのは非常に大切ですね。**



確かに座学だけではつまらないですし、実際にやってみないと面白くないですね！



体験するというのは、将来的にリーダーとして活動していくということの準備段階として、すごくいい機会だと思います。

そういった意味でも大正大学の学生さんとは連携を深めて今まで来ました。



私たち学生としては、すごくありがたいお話です。



以前に墨田のまちづくりを視察した際に、大正大学の学生さんが膨大な報告書を作ってくれたのですが、自分で身をもって体験したことの報告書を作るということは、一生の思い出になると思います。

私はそういった活動をもっと増やしていきたいと思っています。



経験することによって、その後の地域の関りも増えていきますよね。



大正大学の学生も、地域にこのような活動をします！ともっとアピールしていくべきだと思います。大学構内で閉鎖的にやっているだけでは限界がありますしね。

でも鴨台盆踊りは、私も行ったことがありますますが素晴らしいですね。提灯の並びなんかもきれいですし、なかなかあのよう雰囲気は味わえないですよ。



ありがとうございます。そう言ってもらえてうれしいです。



インタビューの様子

3. 記憶に残るような盆踊りを！



今後鴨台盆踊りに期待していることがあれば教えていただけますか？



地元との連携をきちんととることだと思います。

あとは、盆踊りをやるのであれば**どのような方たちに来てほしいかしっかり決めること**だと思います。例えば子供たちをターゲットにするのであれば、そこに行く楽しみを作ってあげることだと思います。



楽しんでもらうための工夫が大切だということですね！



今巢鴨に住んでいる子供たちが、将来大人になった時に、大正大学の盆踊り楽しかったなと言ってもらえればいいですね。



子供が来てくれれば、大人も同伴してくれますもんね！



なるほど！

子供に来てもらえるのが1つポイントになってきますね！



私たちも、双六やくじ引きなどを準備して当たったらお菓子やジュースなどの景品がもらえるような企画を行っていましたよ。あとは、地域のいろいろな団体と連携して企画を行うのもいいと思います。そういったところは、宮崎先生が知っていると思うのでたくさんアドバイスを聞くといいと思います。



わかりました！
お忙しい中たくさんのお話をさせていただきありがとうございました！

今回のインタビューでは千川上水公園の歴史など、身近にあるにもかかわらず知らなかったことを知ることができ、お話を聞いてとても楽しかったです。

また、実際に体験することの大切さや、記憶に残るような盆踊りを開催するにはどのようなことをすれば良いかを考えることができるととても良い機会になりました。

私は、藤井さんがおっしゃっていた「実際に体験することは記憶に残りやすい」という言葉がとても印象に残っています。

子供たちが大人になった時に、大正大学の盆踊り楽しかったな！と覚えておいてもらえるように頑張っていきたいと思います。

記事 人間学部 人間環境学科 3年 相良隼斗
お話を聞いた日 2021年7月2日